

過去・現在・未来の 〈教師〉を想像するちから

大橋保明

本誌のエッセイ「教師と学生を結ぶ」には、ゼミナール等の教育活動を題材に、これまで十三本の大変興味深い論考が寄せられている。今回、

WLA C事務局からは自由なテーマで構わないとゼミを持たない筆者への配慮もいただいたが、教職科目担当者がこのテーマで書かないわけにいかないだろうと思いつき、本学在職十年の区切りに雑文を残すことをお許し願いたい。

過去の教師と学生を結ぶオンライン講義

二〇二〇年五月、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、すべての授業がオンライン対応になったため、教職科目「教育原論」もグループ・クラスルームによるオンデマンド方式とグループ・ミートによるリアルタイム双方向方式を交互展開する形で授業を進めた。コロナ前には考えられなかったリモート授業に戸惑いつつも、教室空間を共有できないこの難局を利用した授業ができないかと試行錯誤を繰り返した。教師文化と教師教育のテーマにおいて、ガンと闘いながらのこの授業を続け、大瀬敏昭校長と浜之郷小学校の教師集団、院内学級教師で赤鼻先生こ

と副島賢和先生に関する教材は当初の予定どおり扱ったが、半分思いつきで最後にこんな小課題を出してみた。《あなたの教師モデルを一人取り上げて、取り上げた理由と教職への覚悟を表明しなさい。ただし、今までに直接対面で話したことがある教師は除く（つまり、恩師はNG）》というものである。予想どおり、学生たちからは「理想の教師は高校時代の恩師だけ」、「会ったこともない先生が理想になるわけがない」などの意見や質問が噴出したが、ストーリーに「教師像は、対面した教師（恩師）の人間性や振る舞いだけで構成されるものでしょうか？ もしそうだとすると、三日間あれば何人かの教師たち間に間接的に出会うことも可能ではないですか？ 今回、浜之郷小学校の教師たちに出会えたように」とだけ書くと、質問はビタツと止んだ。

三日後、野球マンガ『ROOKIES』の川藤幸一先生、「ごくせん」のヤンクミこと山口久美子先生、TVアニメ「暗殺教室」の殺せんせー、NHKプロフェッショナル出演のカリスマ数学教師・井本陽久先生、『ビリギャル』の坪田信貴先生など、映像メディアに若干偏ってはいるものの、学生たちなりによく考え、まとめてくれた。授業では、文学作品、現代小説、漫画、アニメ、ドラマ、映画等で描かれた教師や時代を拓いた現在の教師など八〇人ほど紹介した。現在、全国の公立小中高校には約九〇万人の教師がいるが、出会った教師はどれくらいいるか。自らの教師イメージがいかに狭いものであるかを自覚したうえで、さまざまな資料やオンラインツールを駆使して恩師以外の魅力ある教師たちに地域を越えて出会い、時代を超えて想像しながら、自らの〈教師〉像や教育実践イメージを広げていくのが教職課程の学びであることを伝えている。

現在の教師と学生を結ぶ模擬授業

二〇二一年十二月、教職科目「道徳教育の理論と方法」で約二年ぶり

に教室での対面による模擬授業が行われた。授業は、パキスタンの鉄の女として知られるムニバ・マザリさんの人生を題材に、何事にも諦めずに進み続ける姿勢を持てるようになることをめざした中学三年生対象の学生オリジナル教材である（内容項目「A…希望と勇氣、克己と強い意志」）。グループでの学習指導案検討会と模擬授業者の選出、筆者と助言者役の学生との事前打ち合わせ、模擬授業開始前の教室環境整備や教材準備など、すべてに全力で取り組む模擬授業者の姿には好感がもてた。また、その努力に応えようと積極的に模擬授業に参加する学生たちの姿勢が共鳴し、この温かな学び合いの空間に身をおけることの心地よさと喜びを久しぶりに感じる事ができた。授業が時間内に収まらなかったことや、指導案から目を離せず生徒とのやり取りがスムーズではなかったことなど課題は残ったが、課題が多いということは伸びしろも大きいということであり、今後の成長が楽しみである。

板書準備等をしていった模擬授業者が本番直前にこんなことをつぶやいていた。「（教師である）親の大変さがよくわかったわ……」。たった一回の模擬授業で何がわかるものでもないが、よく知っているはずの親を「教師」である親」として立場を重ね合わせながら再想像する機会にはなかったのかもしれない。また、模擬授業後の振り返りでは、多くの学生から模擬授業者へ感謝とねぎらいの言葉が送られたが、いつも隣に座っている友人から「教師」である友人」へとまなざしの変化が感じられる瞬間でもあった。

未来の教師と学生を結ぶ教育実習

二〇二一年五月十月、教職課程のメインイベントは、何ととっても教職科目「教育実習」である。未曾有のコロナ禍において、二〇二〇年度は三十四名、二〇二一年度は二名の実習期間短縮（内一名は中止）が生

じ、それぞれ必要な代替措置を講じたが、学校関係者の理解・協力の下、一人の感染者もなく無事に実習を終えられたことは幸いであった。マスク越しに顔と名前を覚えることが難しかったり、ペアワークやグループディスカッション等の協働的な学習活動が禁止または制限されたり、研究授業をオンラインで実施したケースなども見られたが、総じて学生たちは前向きに取り組み、多くの成果を得て戻ってきたようである。

実習生A…教育実習を終えて、勉強や自分に自信のない生徒も学ぶ楽しさを知り生涯学び続けられるように、また、自分の事を好きだと思える生徒を育てていきたいと思うようになりました。

指導教諭A…辛い事や楽しい事はどの職業にもありますが、教職は生徒から元氣や勇氣をもらう事や教える事で逆に教わる事も多く、やりがいもたくさんあると思います。三週間の実習で、きつといい先生になると確信できました。ぜひ夢を叶えるべく、これから頑張ってください。

実習生B…二週間の授業を通して、「英語が好きになりました」と言ってくれる生徒もあり、教える事への喜びを感じることができた。右も左もわからず、授業として成立しているのか疑問が残る授業ばかりであったにもかかわらず、いつも集中して授業を受けてくれた生徒には感謝してもきれない。また、どの先生方も親身になって丁寧にご指導くださり、近い将来お世話になるために頑張ろうと思えた。人生で一番幸せな三週間であった。指導教諭B…教員の仕事は教員の裁量で決められますが、「ここまでいいか」と私自身年を重ねるにつれ、易きに流れていってしまっていた気がします。フレッシュな風を私の方こそ入れてもらい、「ここまで生徒にしてあげよう」と限界を上方修正しようと思います。私にとっても充実した三週間でした。

教育実習記録には、当然、英語科教師としての専門的知識の不足や教材研究や教材準備の詰め甘さ、さらには授業を時間内にまとめようとするあまり生徒たちを見ていなかったことや、ICT機器のトラブル時の対応を想定していなかったこと等々、多くの課題や反省が記されている。しかし、教育実習で心が揺さぶられるような経験をした実習生の最後のページには、お世話になったすべての人々への感謝と未来の〈教師〉への決意が述べられることが多い。教育実習前の教師像を学校や教師の内側から捉え返し、未来の〈教師〉である自分へと昇華させる重要な機会として大切にしていきたい。

〈教師〉を想像するちから——困難の中の希望

先日発表された高校生のなりたい職業ランキング（LINEリサーチ）では「教師・教員・大学教授」が堂々の一位であった。堅実かつ魅力ある職業として中学生よりも高校生に人気があることはかねてより言われていた。では、大学生はどうか。各種調査を調べてみたが、十位以内に確認することはできなかった。教師という仕事に高校生は現実から切り離された魅力を感じ、大学生は世間的に流布される教師の過酷な労働環境に絶望を感じているように見える。事実、高等学校教諭一種免許状授与件数は平成二十九年度の五四〇二〇件から令和元年度の四九三七〇件へと約一割減っており、全国的に慢性的な教員不足に陥っている。絶望が社会全体を覆いつくす中、「想像するちから」によってその先に希望を見出せるのが人間であると動物心理学者の松沢哲郎氏は言う。

今この世界を生きているから、チャンバンジーは絶望しない。「自分はどうなってしまうんだろう」とは考えない。たぶん、明日のことさえ思い煩ってはいないようだ。

それに対して人間は容易に絶望してしまう。でも、絶望するのと同じ能力、その未来を想像するという能力があるから、人間は希望をもてる。どんな過酷な状況のなかでも、希望をもてる。

人間とは何か。それは想像するちから。想像するからちからを駆使して、希望をもてるのが人間だと思う。（想像するちから）

本書を手にしたのは福島県民として経験した東日本大震災直後であった。これからの自分、家族、社会がどうなるのかわからない中、がれきの撤去や物資等の運搬・配布など手の届く範囲での懸命な活動により、助け合いの輪の中で生きていくという、震災前には感じる事の無かった喜びにも近い感覚がわいてきたことを昨日のこのように思い出す。教育社会学者としては、この「想像するちから」にC・W・ミルズの言う「社会的想像力」を重ね合わせてみたい。「社会的想像力」は、生活圏における私的問題を社会構造における公的問題へと高め、理解するちからである。過労死ラインを越える教師たちの過酷な労働実態は、個々の教師の能力不足といった個人的な問題ではなく、何でも学校や教師に任せる風潮や国家予算に占める教育費割合の低さなど社会的な問題である。また、しんどい子どもの背景には親の離婚や失業など苦しい家庭状況が見られるが、こうした一見すると私的な問題も、一人親家庭や失業者への差別や偏見が再チャレンジを妨げ、適切な社会保障につながらないといった社会の問題（みんなの問題）として認識されるべきである。多忙を極める教育現場が忌避されていることは残念に思うが、「想像するちから」と「社会的想像力」を駆使して困難の中にわずかでも希望を見出せるよう、また新年度から教壇に立ちたい。

と、締めくくればよいのだが、ふと顔を上げると本棚の端にあるかつての科目等履修生の教育実習手帳が目に入った。総合商社を退職し、退路を断って教育実習に臨んだ彼のことはよく覚えている。

実習生C…あつという間で疲れる暇もない二週間であった。〇〇高

校での教育実習は本当に充実しており、私が教師になれた時の貴

重な財産になることを確信している。この短い期間で少しでも

HRの生徒と親しくなろうと一生懸命、真剣に、SHR、昼食、

そうじなどに取り組んできた。その結果、思った以上に親しく

なれ、本気で精一杯取り組めばそれだけのものが自分に返って

くることを実感した。教育実習までは、正直、自分は教師に向

いているのか、夢を追い続けて正解なのかなど、いろいろな迷

いがあったが、この教育実習の経験はそれらが正しかったこと

を教えてくれた。もう迷いはない。自信を持って進んでいこう

と思う。本当にありがとうございました。

教科指導教官F…毎日の授業準備・HR指導と真剣に一所懸命に取

り組んでくれた。周囲の教官・生徒に接する態度も教員らしく好

感をもてた。二週間、一所懸命に実習に取り組んでくれたので、

きっと良い結果が出ると思う。そう信じ、そう期待する。教員

同志として談笑する日を夢に見つ。

HR指導教官T…生徒の中に飛び込んでいこうとする姿勢、真剣に

生徒に語りかけようとする姿勢、そんな先生の一つひとつの行

動が一年D組の生徒たちにも好ましい影響を与えてくれたと思

います。夢が叶うよう、お祈りしております。

HR指導教官K…アメフト、商社、ボランティア活動等の多くの良

き経験を生かして、生徒から信頼され多くの夢を与える教師に

なるよう頑張ってください。忍耐はすべてのトビラを開くと言

います。夢は必ず実現します。

実習生Cの未来を共に想像し、教官たちは共通して「夢」を刻んでくれ

ていたことに四半世紀経った今、気づいた。彼は今、過去・現在・未来

の多様な（教師）と大学生を結びながら、学校教育の希望を想像し、子

どもたちのゆたかな学びを考え続けている。

参考文献

松沢哲郎『想像するちから——チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書

店、二〇一一年

C・ライト・ミルズ著、伊奈正人・中村好孝訳『社会学的想像力』筑摩書房（ち

くま学芸文庫）、二〇一七年（原著一九五九年）



教育実習手帳と指導案、生徒たちからの花束は「わたしの宝物」